

山口県の海浜におけるウスバカゲロウ科3種の記録

山内健生¹⁾・柿沼 進²⁾

¹⁾兵庫県立大学自然・環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館, 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目

²⁾国際双翅類研究所山口分室, 〒753-0012 山口県山口市青葉台11-22

Records of Three Mymeleontid Species (Neuroptera: Mymeleontidae) in the Coast Area of Yamaguchi Prefecture, Japan

Takeo YAMAUCHI¹⁾ and Susumu KAKINUMA²⁾

¹⁾Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo / Museum of Nature and Human Activities, Hyogo, Yayoigaoka 6, Sanda, Hyogo 669-1546, Japan

²⁾IDD Yamaguchi Lab., Aobadai 11-22, Yamaguchi-shi, Yamaguchi 753-0012, Japan

Abstract: Three mymeleontid species (Neuroptera: Mymeleontidae) were collected in the coast area of Yamaguchi Prefecture, Honshu, Japan. *Paraglenurus okinawensis* and *Myrmeleon bore* are newly recorded from Yamaguchi Prefecture.

キーワード: アリジゴク, コカスリウスバカゲロウ, リュウキュウホシウスバカゲロウ, クロコウスバカゲロウ

Key words : antlion, *Distoleon contubernalis*, *Paraglenurus okinawensis*, *Myrmeleon bore*

はじめに

ウスバカゲロウ科は、幼虫がアリジゴクとして知られており、一般にも馴染み深い昆虫である。本科の昆虫は本州から12種が記録されており（関本・吉澤, 2016）、山口県からはマダラウスバカゲロウ、コマダラウスバカゲロウ、カスリウスバカゲロウ、コカスリウスバカゲロウ、モイワウスバカゲロウ、オオウスバカゲロウ、ウスバカゲロウ、コウスバカゲロウ、ホシウスバカゲロウの9種が記録されていた（山口県立山口博物館, 1988）。

第二著者である柿沼が、2008年に山口県における海浜性ハエ類の調査を実施した際、3種のウスバカゲロウ科を採集した。これらのうちの2種は山口県新記録であるリュウキュウホシウスバカゲロウとクロコウスバカゲロウであったため、報告する。

材料と方法

営巣していた幼虫は、巣を手で掘り起こして採集した。営巣していなかった幼虫は、動いている砂の盛り上がりや偶然発見し、それらを手で掘り起こして採集した。採集した幼虫は、国際双翅類研究所山口分室の雨水のかからない屋外へ運び、採集地点で採取した砂を5～6cmの厚さに敷いた市販の昆虫飼育用ブ

プラスチックケースにて飼育した。飼育中、研究所周囲で採集した昆虫類を餌として与えた。

羽化した成虫は、羽化の数日後に酢酸エチルを用いて殺した後、展翅標本とした。標本は兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されている。

記録

採集データは以下の通りである。

1. コカスリウスバカゲロウ *Distoleon contubernalis* (McLachlan, 1875)
1♂, 宇部市西岐波白土（白土海水浴場）, 幼虫採集 27 V 2008, 羽化 27 VII 2008
2. リュウキュウホシウスバカゲロウ *Paraglenurus okinawensis* (Okamoto, 1910) (図 1A)
1♀, 柳井市伊保庄, 2 IX 2008
1♂, 下関市豊北町角島（大浜海水浴場）, 幼虫採集 30 IV 2008, 羽化 14 VII 2009
3. クロコウスバカゲロウ *Myrmeleon bore* (Tjeder, 1941) (図 1B)
1♀, 下関市吉母（吉母海水浴場）, 幼虫採集 13 XI 2008, 羽化 4 VIII 2009
1♀, 宇部市東岐波（月崎岬）, 幼虫採集 27 VI 2008, 羽化 23 IX 2009
1♀, 下関市豊北町角島（大浜海水浴場）, 幼虫採集 21 X 2008, 羽化 31 VII 2009

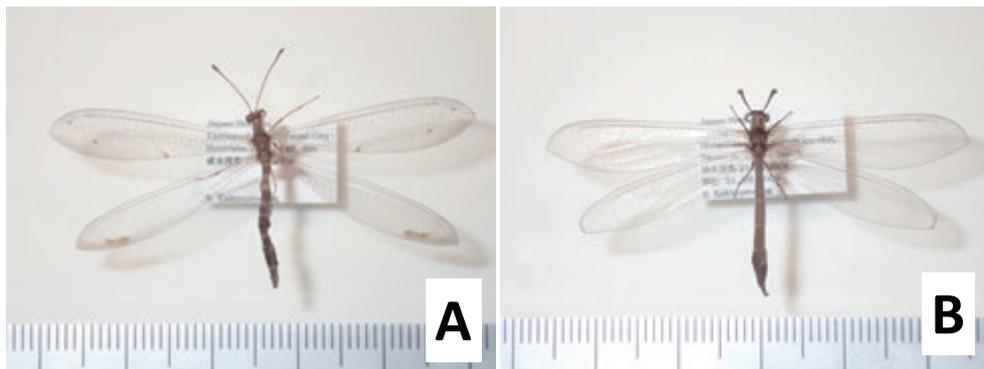


図 1. ウスバカゲロウ科の雌成虫. A: リュウキュウホシウスバカゲロウ *Paraglenurus okinawensis*; B: クロコウスバカゲロウ *Myrmeleon bore*.

リュウキュウホシウスバカゲロウの幼虫は、巣を作らず（松良, 1985）、比較的良好な状態で残されている海浜に生息し、内陸部でも採集されるようである（吉富ら, 2013）。愛媛県では、本種が確認された産地数は少なく、生息環境が限定されているようである（吉富ら, 2013）。

クロコウスバカゲロウの幼虫は、巣を作り、海浜のみならずそれ以外の環境にも生息する（松良, 1985）。本種は、鳥取県内では普通に産するが、兵庫県と京都府では生息地が限られ個体数も少ない（鶴崎ら, 2016）。また、愛媛県では、本種の現存産地数の減少が確認されている（吉富ら, 2013）。

山口県における両種の分布状況は不明であるが、上記の通り、他府県では分布が限られる傾向がある。したがって、本県においても、海浜環境との関係が深い両種の分布情報を集積することが望ましい。

引用文献

- 松良俊明 (1985) 海岸砂丘のアリジゴク ①浜辺に生息するアリジゴクの種類と分布. インセクトリウム, **22**: 120-125.
- 関本茂行・吉澤和徳 (2016) ウスバカゲロウ科. pp.35-39. 日本昆虫目録 第 5 巻 脈翅目群, 長翅目, 隠翅目, 毛翅目, 撚翅目. 日本昆虫目録編集委員会編. 権歌書房, 福岡.
- 鶴崎展巨・中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木峻秀 (2016) 山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布. 山陰自然史研究, **13**: 11-24.
- 山口県立山口博物館 編 (1988) 山口県の昆虫. 山口県立山口博物館, 山口.
- 吉富博之・原 有助・松野茂富 (2013) 愛媛県のウスバカゲロウ 付・愛媛大学ミュージアム所蔵の標本リストと日本産種リスト. 面河山岳博物館研究報告, **5**: 1-10.